

(様式3)

校 種	④ ・ 中 どちらかに○	学校番号	3 2	学校名	宇都宮市立瑞穂野北小学校
-----	-----------------	------	-----	-----	--------------

令和6年度 児童生徒指導に関する取組

1 児童生徒指導上の主な実態

(1) 問題行動等調査(令和4年度)から

- ・ 重大な暴力行為や学校の施設や備品等を損壊させる行為等は発生していない。
- ・ いじめの認知件数2件。現在、全て解消している。
- ・ 長期欠席児童1名(家事都合等その他の理由:クリスチャンスクールに通学)

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・ あいさつをすることやきまりを守ることの大切さを理解している児童が多い。
- ・ 低学年や高学年では自分のよいところを認めている児童の割合が高いが、中学年はやや児童の割合が低い傾向が見られる。
- ・ 働くことや人のために役立つこと、助け合ったり協力し合ったりすることが大切だと考えている児童が多い。
- ・ 目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組んだり、失敗を恐れずに挑戦したりする児童の割合は、市の平均や本校の指標に届いてはいるものの、高いとは言えない。
- ・ 携帯電話やスマートフォンを持っている児童のうち、フィルタリングを設定したり家の人とルールを決めたりしている児童の割合は、低学年の方が高い。

(3) 学校生活の状況から

- ・ 素直な児童が多く、全体的に落ち着いて生活している。
- ・ 異学年(縦割り班等)での交流を通し、全校児童が互いによく理解し合っている。
- ・ 任せられた仕事に責任をもって取り組んだり、友達や学級のために進んで行動したりする児童が多い。
- ・ 2～3世帯同居の家庭が多い。
- ・ 自然環境に恵まれている。
- ・ 指示待ちの児童が多い。
- ・ 失敗を恐れずに挑戦したり、自分の考えや発想を生かして活動したりしようとする意欲にやや欠ける。
- ・ 交通ルールなどのきまりについて理解できているが、登下校時にマナーを守れず危険な行動が見られる。
- ・ 時と場に応じたあいさつの大切さを理解できてはいるが、自分から進んであいさつをする児童は少ない。

2 今年度の重点目標

困難に負けない強さと他者への思いやりの心をもった児童の育成

- ・ 児童のよさを見取り、「認め・褒め・励ます」指導を実践する。
- ・ 児童の一人一人のよさと可能性を生かし、生きがい・居がいのある学校づくりに努める。
- ・ 児童が自分で考えて行動する機会を増やし、全教職員で見守る姿勢を大切にする。

3 今年度の取組(「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★、「令和6年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、不登校対策における取組のうち重点は文頭に○)

教育活動全体を通して自己指導能力の育成を図り、社会的資質や行動力を高める。
(その時、その場でどのような行動が適切であるか自分で考え、決めて実行する力の育成)

(1) 基本的生活習慣・規範意識の育成

- ・「瑞北小の一日」の周知・徹底と、指導事項の焦点化
- ・地域学校園での、情報交換と共通理解による児童指導（6，12月）
- ★□ よい行いを児童が相互に認め合う場や教職員が称賛する機会の設定
- ・家庭と連携した、時と場に応じた返事やあいさつの励行と言葉遣いの指導
- ・地域や地域学校園と連携した「あいさつ運動」の実施

(2) 人権感覚・思いやりの心の育成

- ★□ 縦割り班活動等を生かした、相手の立場を考える場の設定（清掃，給食，児童会活動，学校行事）
- ★□ 多様性（支援を要する児童，ジェンダー等）の理解を促す機会の設定（交流，学級活動等）
- ・読書活動の充実（朝の読書，読み聞かせや読書週間）
- ★□ 「クリーン活動」「清掃強化日」等を活用した地域の人々との交流や，勤労・奉仕的活動の充実
- ・「ホタルの夕べ」「どんどん焼き」等の地域行事への参加の推奨
- ★□ 情報機器を使ったトラブルの防止についての指導・啓発（学級活動，学級懇談会，各種便り）

(3) 自己有用感・たくましさの育成

- ★ 特別活動や各教科等における「挑戦する」・「我慢する」・「諦めない」体験活動の充実
- ・グループ学習や習熟度別学習等を生かした，分かる喜びや成就感等を味わえる指導の工夫
- ★□ 発達の段階に合わせた，自ら考え・判断し・行動させる場の設定
- ★□ 〇頑張りや努力を認め・褒め・励ます機会の設定，日々の言葉掛け
- ・教える，支える，見守ることのバランスをとった指導・支援
- ★□ 「宮っ子心の教育表彰」を活用した学校独自の表彰制度の充実（10，3月「北っ子賞」）

(4) いじめ対策の充実

- ・互いのよさを認め合い，児童一人一人の存在感が得られるような学級経営
- ★ 年2回の「いじめゼロ強調月間」の実施（5，9月）
- ★ 年4回の「いじめアンケート」と年2回の「教育相談」の実施（5，9，11，2月）
- ★ 「Q-U調査の結果を活用した事例研究会」や「人権教育研修会」の実施（7，12月）
- ★□ 児童主体の「いじめゼロ標語」の募集・「いじめゼロ集会」の実施（5，9月）
- ★□ 「いじめ」を題材とした道徳科の授業の実施（5，9月）
- ★ 「いじめ対策委員会」や「学校生活アンケートの情報交換会」による情報の共有と対応策の検討
- ★ 保護者への報告・協力依頼（加害・被害双方），家庭や地域への情報提供（各種便り，ホームページ）

(5) 不登校対策の充実

- ★□ 〇全ての児童にとって安心できる温かい雰囲気学の学級経営，児童・保護者との信頼関係の構築
- ★ 〇欠席児童への電話連絡・家庭訪問・日々の言葉掛けの実施
- ★ 〇「児童指導情報交換会」・「欠席状況共有シート」・「日々の様子」等による児童の状況把握
- ★ 〇「不登校対策委員会」の開催による情報の共有と対応策の検討
- ★□ 〇 S C への相談や保健室等を活用した別室登校支援，I C T 機器の活用方法の検討
- ★ 〇保護者への学校の支援方針理解と協力依頼